

新型インフルによる肺炎発症を解明した北大教授

たなか
田中 伸哉さん
しんや

新型インフルエンザに感染、昨年8月に死亡した道内の40代女性保健師の病理解剖を担当。国立感染症研究所との共同研究で死因をウイルス性肺炎と特定し、新型インフルによる人間での肺炎発症メカニズムを解明した。

「教室スタッフ全員の力による集大成」と語る今回の研究。新型ウイルスが肺内部の細胞を直接攻撃し、肺胞が壊れる過程を実証、のどなどへの感染に限られる「季節性」との違いを明らかにした。

1990年、北大医学部卒。3年間の米国留学時を除き、一貫して北大病理学教室で研究を続けてきた。医師である両親の姿に触発され、少年時代に志した医師への道。病理学の世界に

は「内科医になる前に腕試しのつもりで飛び込んだ」。恩師に恵まれ気が付けば丸20年。2年前に教室の主宰者に。目標は「橋渡し病理学」で「基礎医学の成果を臨床の現場に役立てる。その懸け橋になりたい」と願う。今回の共同研究も昨秋、

新型感染で意識不明となった中国地方の女兒に対する治療の参考とされた。女兒の命を救うことにつながり、「何よりもうれしかった」と語る。また、新型感染者の消化器疾患に関する新たな検査依頼が、道内の病院から寄せられた。「ベストを尽くす」。その思いは変わらない。

札幌市出身。市内で妻と中3、中1の娘、愛犬と暮らす。音楽鑑賞が趣味の45歳。
(梶山征広)

